

科目名	国際化時代の平和
単位数	2.0
担当者	竹本真希子(広島平和研究所准教授)、徐顕芬(広島平和研究所准教授)、広島平和研究所教員
履修時期	後期
履修対象	1・2年
講義形態	講義
講義の目的	<p>広島の被爆体験をはじめ、世界が経験した多様な悲惨な体験とその記憶の継承、現在の社会への影響について学ぶことにより、悲惨な体験と記憶の継承が、平和の喪失から平和の創造へと転じる上で果す役割について考える。</p> <p>世界のさまざまな悲惨な体験や人権抑圧などの事例がどのように記憶化され継承されているか、また現在の社会にどのような影響を与えているかを学ぶ。</p> <p>広島の被爆体験を出発点としつつ、世界の多様な事例を踏まえながら、国際的な平和を創造するための課題について議論するための基礎知識を得る。</p>
到達目標	<p>国際化時代の平和をめぐる問題とその背景に関して知識を習得する。(知識・技能、思考力)</p> <p>国際的な平和を創造するための議論に必要な基礎知識を習得する。(知識・技能、思考力)</p>
受講要件	特になし。
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	<p>毎回配布する資料をもとに、参考文献を読み、予習・復習する。</p> <p>事典等を用いて関連する用語について予習・復習する。</p> <p>授業で学んだテーマに関して各自の見解をまとめる。</p>
講義内容	<p>順序および内容は変更の可能性あり。講義内でアナウンスする。</p> <p>ウェブサイト(WebClass)で最新情報を確認してから出席すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス 国際化時代の平和 ・国際平和のための民族浄化の歴史 ・周縁の被爆者——ろう者の原爆の語り ・ナチズムとホロコースト ・勝利・敗戦の記憶と歴史認識 ・沖縄の戦後史——沖縄戦と戦後の米軍基地の形成 ・沖縄の現在——沖縄の自治と尊厳をめぐる争点 ・第二次世界大戦の喪失体験と記憶 ・国際社会の組織化と国際法の発展 ・中国の対外援助 ・東アジアの安全保障 ・貧困緩和と平和 ・持続可能な発展目標(SDGs)と平和 ・ロシアとアジアの国境問題——北方領土 ・ロシアとアジアの国境協力——上海協力機構
期末試験実施の有無	実施する
評価方法・基準	<p>平常点:40% 毎回講義後に感想レポートの提出を求める。</p> <p>期末試験:60%</p>
教科書等	<p>教科書は使用せず、適宜資料を配布する。</p> <p>参考文献: 広島市立大学広島平和研究所(編)『アジアの平和とガバナンス』(有信堂高文社、2022年2月出版予定) 広島平和研究所(編)『広島発の平和学』(法律文化社、2021年) 広島市立大学広島平和研究所(編)『平和と安全保障を考える事典』(法律文化社、2016年)</p> <p>参考文献はさらに講義内で紹介する。</p>
担当者プロフィール	<p>授業担当者の経歴・研究内容等については、広島市立大学広島平和研究所ホームページを参照のこと。</p> <p>https://www.peace.hiroshima-cu.ac.jp/faculty/ 研究室: 広島平和研究所(情報科学部別館4階)</p>
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	感想レポートおよび期末試験の内容に関して、代表的な意見や解答を抜粋して取り上げ、授業中やWebClass上で回答・講評する。
アクティブ・ラーニング	
キーワード	国際関係、平和、平和研究、ヒロシマ
備考	